御祝辞

「３０周年のお祝いにあたり」
北海道ラグビーフットボール協会
理事長　植田　健二　様

札幌少年ラグビースクールが開校３０周年を迎えられたことは、大変意義深いことであり、心よりお祝い申し上げます。

３０年の長きにわたり、スクールの運営にあたられた指導者の皆様のご苦労は並大抵のことではなかったこととご推察申し上げ、そのご尽力に敬意を表するところであります。

スクールの活動でラグビーの魅力を知り、その後もプレーヤーとしてやサポーターとしてラグビーに関わる方々が多数いることは、本道におけるラグビーの普及にあたり大きな貢献をいただいたと感じているところでもあります。

近年のＪＡＰＡＮの選手をみても多くの選手がスクールでの活動を経て、その後のキャリアを深めていると聞いているところです。

奇しくも、ワールドカップの開催年にこのような慶事が重なったことはラグビースクールの活動に多くの方々が関心の目を向けることになるのではないかと思っているところです。

この度の「東日本大震災」により「ONE FOR ALL」「ALL FOR ONE」の言葉を耳にする機会が増えたように感じますが、このラグビー精神の一つは子どもたちが成長するにあたっての「キーファクター」の一つであることは間違いのないことと思っているところです。

スクール生の指導について道協会の関係者からの報告によると、試合中は反則プレーに対しチームメイトからの注意や試合終了後はお互いがラグビー仲間として楽しく歓談しているなど、プレーのみでなく「フェアプレー」・「ノーサイド」等のラグビー精神に対する指導の成果も現れていると聞いています。

札幌スクールのコーチに伺ったところ、最近はスクール生の確保に苦慮しているとのことでしたが、ゲーム機としか遊べない子どもたちが増えている昨今、己と仲間を信じて行うラグビーの楽しさを広げていくためには、札幌少年ラグビースクールの存在意義は極めて大きなものであります。

札幌スクールから巣立った多くの子どもたちが高校・大学または社会人やクラブでラグビーを続けているとも伺っていますし、札幌ラグビースクールの出身者が成年の北海道代表選手として活躍されていたり、道内のみならず各地で活躍されている様子も伺っているところです。

今後、更に札幌少年ラグビースクールが発展し、スクール出身者がその輪を広げ本道ラグビーの普及発展の一翼を担っていただけることをご期待し、お祝いのご挨拶とさせていただきます。